

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100109		
法人名	有限会社 オオキタコーポレーション		
事業所名	グループホーム夢楽園 (わかば)		
所在地	岡山県岡山市南区福島3丁目5-15		
自己評価作成日	平成 29 年 9 月 5 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&igiyosyoCd=3390100109-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 29 年 9 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりのペースを大切に、職員がゆったりと関わることが出来るように意識をしています。ご利用者にはそれぞれ担当スタッフを決めており、より良く見させていただき 日頃のケアの気づきをケアプランに生かすことが出来るようにしています。また、職員研修で「利用者体験」をすることにより、相手の気持ちに寄り添うことの大切さに気付く事が出来ています。また、毎月の行事や季節に合わせた催しを計画し、スタッフやご利用者同士の交流を行ったり、希望をお聞きして行きたい所に外出する機会を作っています。楽しみを持っていただきご利用者の笑顔があふれるグループホームをみんなで作りたい、と協力してチームケアを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の夏祭りに地域の方が着付けのボランティアに来たり、今年初めて地域の夏祭りに招待されるなど、地域との交流が増えている。また、地域との交流が基となり、利用者と家族の絆も深まっている。利用者が外に出て分かる様、玄関のドアから音が鳴るように工夫しているが、利用者の希望や要望に合わせて職員が付き添って散歩することもある。地域の見守りも大きな支えとなり、拘束することなく安心して生活できる環境作りが出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念がケアに反映されているか振り返りができるように、スタッフルームと玄関に掲げ実践している。また、毎朝の朝礼で理念の唱和を行い、意識づけをしている。	毎朝、各ユニットで理念の唱和を行い、職員に周知している。毎年4月に事業所の理念と方針をテーマにした研修を行っており、職員全員で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園や小学校の行事を慰問交流している。町内の夏祭りに参加したり、地域の方のボランティアも受け入れており、行き来により顔なじみの関係が出来ている。	婦人会による催し(踊りや歌等)や写経のボランティアなどを受け入れている。また、町内会の夏祭りに利用者と一緒に参加したり、事業所内の夏祭りでは地域の方が浴衣の着付けをしったりして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方の受け入れや、ご近所との関わりの中でホームの様子や認知症の方の支援の方法について伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長はじめ、地域住民の方やご家族の多くの参加をいただき、意見交換が出来ている。ホームの現状を伝えるだけでなく、ご家族同士の交流の機会となっている。	夏祭りや避難訓練、花見などに合わせて運営推進会議を行っている。ウッドデッキの階段を下りる練習をする等、近所の方や消防署からの意見やアドバイスを率直に受け入れ、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者に不明点などを訊ねたり、窓口手続きの際には運営推進会議の案内をさせてもらっている。参加しただけでないこともあるが、毎回案内と報告をさせていただいている。	市町村担当者に生活保護の制度や申請書類の手続き等について相談したり、地域包括からケアサービスに関する情報を得たりするなど、積極的に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外に出ようとされる場面は日頃から見られるが、制止するのではなく利用者の思いに寄り添える関わりを行うようにしている。安易に施錠をすることのない様、工夫をしながら職員個々の意識の向上につながるよう努めている。	玄関やテラス側の窓は日中開放しており、開けたら音がる様に工夫している。月一回の勉強会や全体研修を通じて職員全員が正しく身体拘束について学び、拘束の無いケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に言葉遣いの乱れからケアが乱れてしまう事をカンファレンス等で伝えている。日常のケアできつい言葉かけが聞かれた場合は、させていただき気持ちを持つ事を指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画で、権利擁護についても勉強会の実施を予定している。また、今年も成年後見制度の外部研修があれば、参加して伝達講習を行いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて丁寧に説明をするように心がけている。料金、リスク面や看取りへの対応についても納得を得られるよう説明を行い、利用者やご家族の不安や疑問点を取り払うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族の思いを遠慮なく相談して頂けるような雰囲気づくりを心がけて、提案されたご意見はカンファレンスなどで検討し、反映できるように努めている。外部の相談窓口についても利用契約時には説明をさせていただいている。	事業所側から面会に来た家族へ話しかける様になっている。「毎日通いたい」「介助したい」などの要望にも真摯に対応している。家族と何でも話し合える信頼関係が築けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見をあまり言わない職員には配慮し、こちらから機会を作り問いかけるようにしている。また、代表者との交流の機会もあり、意見が言える環境作りに努めている。	ケアに対しての相談は主任、人間関係や働き方の相談はホーム長が受けている。バスで家族と一緒にホテルのランチバイキングを楽しむなど、職員の提案や意見は率直に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	何でも話しやすい環境を心がけ、職員同士の人間関係やストレスの要因の把握に努めている。前向きに働けるよう、頑張りを認められるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や立場に応じてスキルアップのため事業所内外の研修を提供して受講を勧めている。参加者は伝達講習を行い研修内容を共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームの訪問や交流の中で、自ホームの振り返り、見直しに繋げている。外部研修で同業者との交流を通して、情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安や希望に添えるよう、管理者と主任で事前面談を行っている。生活状態を把握し、安心して生活していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人との関係づくり同様、入居初期のご家族の心配される気持ちにもしっかりと耳を傾け 信頼していただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容によって、必要なサービスが受けれるよう他の事業所とも連携をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いや、やりがいを探り出来る事を一緒に行っている。利用者から支えてもらったり、励まし合いながら和やかに生活出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との情報交換は密にできている。外出や外食で気分転換を図って下さったり、ボランティアで利用者に関わり、楽しみを作って下さったりと協力が得られている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、お墓参りに行かれたり 知人が来訪される利用者もいる。地域の夏祭りに参加し、知人や親族と会う機会を持つことが出来た。	行きつけのスーパーや普通っていたお好み焼き屋へ出かけたり、家族と一緒に昼食に出かけたりしている。また、近所の知人や元職場の先輩等が来訪している。利用者を尊重した関係性の維持・継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を配慮し、トラブルやストレスを少なくし、多くの会話を持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい暮らしにむけてスムーズに不安なく移行出来るよう、情報提供を行いきめ細かい連携を図ることが出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、言葉や表情などから思いや暮らし方の希望の把握に努めている。また、ご家族の方より助言や情報もいただきながらご本人本位に検討している。	言葉でうまく伝えられない利用者に対しては、表情や仕草で読み取るようにしている。また、居宅時代のケアマネージャーや以前利用していた施設、家族から生活歴等の詳しい情報を得て、個々に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の今までの暮らしぶりや、地域の中でどのような関わりをしてきたのか等把握に努め、自分らしく安心して生活して頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の出来る事、したい事、得意な事をいただける環境を作っている。老化や認知症の進行に伴い出来ないことも増えるが、現状を把握し個々に合わせたケアを検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の視点に立って、その人らしく暮らしていただくために、ご本人やご家族の思いや、要望をカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。	各ユニットに計画作成担当者を配置し、各居室担当者が中心となり、ケアカンファレンスを行っている。モニタリングを3ヶ月に1度行い、変化があればその都度見直しを行っている。外出・外食支援など、家族の希望や要望も柔軟に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意して、身体的状況や日々の暮らしの様子を記載して、気づきや状況変化を把握している。記録を活かし常に情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、医療機関への受診、通院、送迎等必要な支援は予定外であっても柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心した地域での暮らしを続けられるよう、運営推進会議で地域包括支援センターの職員の方や、町内会長などと支援に関する情報交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医療機関ともいつでも連絡、相談をさせて頂きながら適切な医療を受けられるよう支援している。	ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としている。24時間対応であり、変化があればその都度掛け付けてくれるなど、フットワークが軽く、職員も信頼している。また、歯科往診も取り入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で利用者の身体状況の変化を早期に発見し、ただちに看護職に報告・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員が定期的に見舞うようにしている。また、ご家族とも病状等の情報交換をしながら、入院によるダメージを最小限にし、速やかな退院支援に結び付けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向をふまえて、医師、職員が連携を取りながら、安心出来る希望に沿った最期を迎えられるよう取り組んでいる。職員もカンファレンスで随時方向性を確認しながら、支援を行っている。	医療行為が無ければ看取り対応する方針であり、同意書を交わす時に詳しく説明し、家族の希望に沿えるよう努力している。年1回、内部研修を行っており、細かいケアについて職員全員で話し合い、共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応や、事故発生時の対応について、管理者・看護師・医師と連携が出来、慌てることのないように勉強会を実施している。夜間の対応、連絡方法についてもマニュアル化している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が災害時に、利用者に安全に避難していただけるように訓練を重ねている。地域の方や近所の方にも防災訓練に参加して頂き、反省点については次回の訓練に生かせるよう取り組んでいる。新人職員を主に実施している。	年2回、夜間を想定した避難訓練を実施しており、水害や地震を想定した訓練にも取り組んでいる。その際、地域の方も避難誘導などに参加している。備蓄に関しては、定期的に消費期限等の確認をし、同法人内の事業所と協力しながら対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを尊重し、さりげないケアを心がけている。個人情報等の守秘義務については入社時オリエンテーションで伝えるようにしている。	話を聞く時は居室に誘導する事が多く、安心して話しが出来るように配慮している。また、往診も居室でお願いしている。外部の接遇研修に参加して学んだ事を持ち帰り、職員に伝えている。	利用者に対する言葉かけのさらなる向上に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声掛けを行い、ご本人の意思や思いを話しやすい雰囲気作りを大切にして、自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけ、その日の利用者の気分や希望にそって支援できる様になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のお気に入りの衣服やこだわりを大切に、心地よさや落ち着きを重視している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に手作りの食事を囲み、時には季節の新鮮な畑の野菜を味わったりと、食事が楽しみな時間になっている。日常的ではないが、行事の際には利用者も食事作りに関わっていただけるように計画をしている。	調理専門の職員が各ユニットに配置され、畑で収穫した野菜を取り入れたり、刻みやソフト食などに対応したりしている。バーベキューやそうめん流しなど、食べることを行事にすることで、普段よりも食欲旺盛になり、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、個々に合った食事形態で、1日の必要量が確保できるよう支援している。食欲低下している利用者にはカロリー・栄養補助食品などを個々に合わせてお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた方法で口腔ケアの誘導をさせて頂き、口腔内の清潔が保たれるよう支援している。歯科衛生士に指導を受け、必要な方にはスポンジブラシやコンクールを用いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンやサインを全職員が把握し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導している。	個々に合わせたトイレ誘導を行うことで、尿意を訴えられるようになったり、退院後、入院前に近い状態に戻ったりする利用者もいる。ポータブルトイレは夜間のみ使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、リハビリ体操や水分補給を促しスムーズな排便に努めているが、もう少し歩行する機会を増やしていきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分を重視しながら、職員と1対1でかわられるゆったりとした楽しい時間になるように配慮している。入浴時間はご本人の希望には添えていないのが現状である。	入浴が好きな利用者に対して頻度を増やすなど、なるべく利用者の希望に沿った支援に努めている。入浴を嫌がる利用者には、お気に入りの職員が対応したり、音楽をかけたりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活リズムを整え午睡の必要な方や、就寝時間の遅い方など個々に応じた対応を行い、眠れない利用者については、ご本人の状態や環境面等を総合的に考えて、調整に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は誤薬のないように、ご本人と一緒に「日付・名前・いつ飲む薬か」の確認を徹底して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の楽しみや、得意なことで力を発揮して頂き、その方らしい姿が見られる場面作りを心がけている。工作や料理や生け花、畑仕事など経験や知恵を発揮していただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	嗜好品の買い物に近所のスーパーまで出かけたり、気分転換に園庭に散歩に出たり支援は行っている。一人ひとりの希望には添えていないが、外出の機会が増えてきている。ご家族も協力的であり外食や気分転換の機会を作っていたいただいている。	日常的には、職員と一緒に洗濯物を干したり、園庭の花や野菜の植え替えを見たり、野菜を収穫したり、買い物に出かけたりしている。また、同法人内の他事業所の行事に出かけたり、家族と一緒に昼食に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力のもと、お財布を持っている利用者もあり、希望に応じて買い物に行き支払いをして頂いたり、お金を使うことが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に相談の上、希望時には電話をかけていただいたり、年賀状をだしていただく支援もしている。家族からの手紙を楽しみにしている利用者もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には利用者と一緒に作った季節を感じる壁画を飾ったり、ホールや玄関には園庭の季節の花を生けて楽しんで頂けるように配慮している。トイレやゴミ等の不快な匂いに気を配っている。	利用者が集うホールには、コスモスの折り紙作品やどんぐり・落ち葉のぬり絵作品などが飾られ、季節を感じることが出来る。また、ウッドデッキなど利用者が思い思いに過ごせる場所も確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他ユニットの利用者の所へ行って気分転換を図ったり、テラスで日光浴をしたりと、一人ひとりの落ち着く時間を過ごしていただけるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人の写真や思い出の品を持ち込まれ、安心感のある馴染みの環境となるようにご家族にも協力をお願いしている。	壁にひ孫の写真を飾ったり、好きなぬいぐるみや時計、お気に入りのパジャマやシャツなどを持ち込んでいる。ベッドやポータブルトイレの配置は、利用者の動線や状態に合わせて工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の力で安全に移動ができるようにホールの席の配置を考えたり、居室で安全に過ごすことが出来るように身体状況に合わせてベッドや車イスの配置を考えている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100109		
法人名	有限会社 オオキタコーポレーション		
事業所名	グループホーム夢楽園 (かえで)		
所在地	岡山県岡山市南区福島3丁目5-15		
自己評価作成日	平成 29 年 9 月 5 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&igiyosyoCd=3390100109-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 29 年 9 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりのペースを大切に、職員がゆったりと関わることが出来るように意識をしています。ご利用者にはそれぞれ担当スタッフを決めており、より良く見させていただき 日頃のケアの気づきをケアプランに生かすことが出来るようにしています。また、職員研修で「利用者体験」をすることにより、相手の気持ちに寄り添うことの大切さに気付く事が出来ています。また、毎月の行事や季節に合わせた催しを計画し、スタッフやご利用者同士の交流を行ったり、希望をお聞きして行きたい所に出かける機会を作っています。楽しみを持っていただきご利用者の笑顔があふれるグループホームをみんなで作りたい、と協力してチームケアを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の夏祭りに地域の方が着付けのボランティアに来たり、今年初めて地域の夏祭りに招待されるなど、地域との交流が増えている。また、地域との交流が基となり、利用者と家族の絆も深まっている。利用者が外に出て分かる様、玄関のドアから音が鳴るように工夫しているが、利用者の希望や要望に合わせて職員が付き添って散歩することもある。地域の見守りも大きな支えとなり、拘束することなく安心して生活できる環境作りが出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念がケアに反映されているか振り返りができるように、スタッフルームと玄関に掲げ実践している。また、毎朝の朝礼で理念の唱和を行い、意識づけをしている。	毎朝、各ユニットで理念の唱和を行い、職員に周知している。毎年4月に事業所の理念と方針をテーマにした研修を行っており、職員全員で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園や小学校の行事を慰問交流している。町内の夏祭りに参加したり、地域の方のボランティアも受け入れており、行き来により顔なじみの関係が出来ている。	婦人会による催し(踊りや歌等)や写経のボランティアなどを受け入れている。また、町内会の夏祭りに利用者と一緒に参加したり、事業所内の夏祭りでは地域の方が浴衣の着付けをしったりして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方の受け入れや、ご近所との関わりの中でホームの様子や認知症の方の支援の方法について伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長はじめ、地域住民の方やご家族の多くの参加をいただき、意見交換が出来ている。ホームの現状を伝えるだけでなく、ご家族同士の交流の機会となっている。	夏祭りや避難訓練、花見などに合わせて運営推進会議を行っている。ウッドデッキの階段を下りる練習をする等、近所の方や消防署からの意見やアドバイスを率直に受け入れ、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者に不明点などを訊ねたり、窓口手続きの際には運営推進会議の案内をさせてもらっている。参加しただけでないこともあるが、毎回案内と報告をさせていただいている。	市町村担当者に生活保護の制度や申請書類の手続き等について相談したり、地域包括からケアサービスに関する情報を得たりするなど、積極的に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外に出ようとされる場面は日頃から見られるが、制止するのではなく利用者の思いに寄り添える関わりを行うようにしている。安易に施錠をすることのない様、工夫をしながら職員個々の意識の向上につながるよう努めている。	玄関やテラス側の窓は日中開放しており、開けたら音がる様に工夫している。月一回の勉強会や全体研修を通じて職員全員が正しく身体拘束について学び、拘束の無いケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に言葉遣いの乱れからケアが乱れてしまう事をカンファレンス等で伝えている。日常のケアできつい言葉かけが聞かれた場合は、させていただき気持ちを持つ事を指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画で、権利擁護についても勉強会の実施を予定している。また、今年も成年後見制度の外部研修があれば、参加して伝達講習を行いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて丁寧に説明をするように心がけている。料金、リスク面や看取りへの対応についても納得を得られるよう説明を行い、利用者やご家族の不安や疑問点を取り払うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族の思いを遠慮なく相談して頂けるような雰囲気づくりを心がけて、提案されたご意見はカンファレンスなどで検討し、反映できるように努めている。外部の相談窓口についても利用契約時には説明をさせていただいている。	事業所側から面会に来た家族へ話しかける様になっている。「毎日通いたい」「介助したい」などの要望にも真摯に対応している。家族と何でも話し合える信頼関係が築けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見をあまり言わない職員には配慮し、こちらから機会を作り問いかけるようにしている。また、代表者との交流の機会もあり、意見が言える環境作りに努めている。	ケアに対しての相談は主任、人間関係や働き方の相談はホーム長が受けている。バスで家族と一緒にホテルのランチバイキングを楽しむなど、職員の提案や意見は率直に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	何でも話しやすい環境を心がけ、職員同士の人間関係やストレスの要因の把握に努めている。前向きに働けるよう、頑張りを認められるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や立場に応じてスキルアップのため事業所内外の研修を提供して受講を勧めている。参加者は伝達講習を行い研修内容を共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームの訪問や交流の中で、自ホームの振り返り、見直しに繋げている。外部研修で同業者との交流を通して、情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安や希望に添えるよう、管理者と主任で事前面談を行っている。生活状態を把握し、安心して生活していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人との関係づくり同様、入居初期のご家族の心配される気持ちにもしっかりと耳を傾け 信頼していただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容によって、必要なサービスが受けれるよう他の事業所とも連携をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いや、やりがいを探り出来る事を一緒にやっている。利用者から支えてもらったり、励まし合いながら和やかに生活出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との情報交換は密にできている。外出や外食で気分転換を図って下さったり、ボランティアで利用者に関わり、楽しみを作って下さったりと協力が得られている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、お墓参りに行かれたり 知人が来訪される利用者もいる。地域の夏祭りに参加し、知人や親族と会う機会を持つことが出来た。	行きつけのスーパーや普通っていたお好み焼き屋へ出かけたり、家族と一緒に昼食に出かけたりしている。また、近所の知人や元職場の先輩等が来訪している。利用者を尊重した関係性の維持・継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を配慮し、トラブルやストレスを少なくし、多くの会話を持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい暮らしにむけてスムーズに不安なく移行出来るよう、情報提供を行いきめ細かい連携を図ることが出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、言葉や表情などから思いや暮らし方の希望の把握に努めている。また、ご家族の方より助言や情報もいただきながらご本人本位に検討している。	言葉でうまく伝えられない利用者に対しては、表情や仕草で読み取るようにしている。また、居宅時代のケアマネージャーや以前利用していた施設、家族から生活歴等の詳しい情報を得て、個々に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の今までの暮らしぶりや、地域の中でどのような関わりをしてきたのか等把握に努め、自分らしく安心して生活して頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の出来る事、したい事、得意な事をいただける環境を作っている。老化や認知症の進行に伴い出来ないことも増えるが、現状を把握し個々に合わせたケアを検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の視点に立って、その人らしく暮らしていただくために、ご本人やご家族の思いや、要望をカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。	各ユニットに計画作成担当者を配置し、各居室担当者が中心となり、ケアカンファレンスを行っている。モニタリングを3ヶ月に1度行い、変化があればその都度見直しを行っている。外出・外食支援など、家族の希望や要望も柔軟に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意して、身体的状況や日々の暮らしの様子を記載して、気づきや状況変化を把握している。記録を活かし常に情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、医療機関への受診、通院、送迎等必要な支援は予定外であっても柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心した地域での暮らしを続けられるよう、運営推進会議で地域包括支援センターの職員の方や、町内会長などと支援に関する情報交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医療機関ともいつでも連絡、相談をさせて頂きながら適切な医療を受けられるよう支援している。	ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としている。24時間対応であり、変化があればその都度掛け付けてくれるなど、フットワークが軽く、職員も信頼している。また、歯科往診も取り入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で利用者の身体状況の変化を早期に発見し、ただちに看護職に報告・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員が定期的に見舞うようにしている。また、ご家族とも病状等の情報交換をしながら、入院によるダメージを最小限にし、速やかな退院支援に結び付けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向をふまえて、医師、職員が連携を取りながら、安心出来る希望に沿った最期を迎えられるよう取り組んでいる。職員もカンファレンスで随時方向性を確認しながら、支援を行っている。	医療行為が無ければ看取り対応する方針であり、同意書を書かず時に詳しく説明し、家族の希望に沿えるよう努力している。年1回、内部研修を行っており、細かいケアについて職員全員で話し合い、共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応や、事故発生時の対応について、管理者・看護師・医師と連携が出来、慌てることのないように勉強会を実施している。夜間の対応、連絡方法についてもマニュアル化している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が災害時に、利用者に安全に避難していただけるように訓練を重ねている。地域の方や近所の方にも防災訓練に参加して頂き、反省点については次回の訓練に生かせるよう取り組んでいる。新人職員を主に実施している。	年2回、夜間を想定した避難訓練を実施しており、水害や地震を想定した訓練にも取り組んでいる。その際、地域の方も避難誘導などに参加している。備蓄に関しては、定期的に消費期限等の確認をし、同法人内の事業所と協力しながら対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを尊重し、さりげないケアを心がけている。個人情報等の守秘義務については入社時オリエンテーションで伝えるようにしている。	話を聞く時は居室に誘導する事が多く、安心して話しが出来るように配慮している。また、往診も居室でお願いしている。外部の接遇研修に参加して学んだ事を持ち帰り、職員に伝えている。	利用者に対する言葉かけのさらなる向上に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声掛けを行い、ご本人の意思や思いを話しやすい雰囲気作りを大切にして、自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけ、その日の利用者の気分や希望にそって支援できる様になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のお気に入りの衣服やこだわりを大切に、心地よさや落ち着きを重視している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に手作りの食事を囲み、時には季節の新鮮な畑の野菜を味わったりと、食事が楽しみな時間になっている。日常的ではないが、行事の際には利用者も食事作りに関わっていただけるように計画をしている。	調理専門の職員が各ユニットに配置され、畑で収穫した野菜を取り入れたり、刻みやソフト食などに対応したりしている。バーベキューやそうめん流しなど、食べることを行事にすることで、普段よりも食欲旺盛になり、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、個々に合った食事形態で、1日の必要量が確保できるよう支援している。食欲低下している利用者にはカロリー・栄養補助食品などを個々に合わせてお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた方法で口腔ケアの誘導をさせて頂き、口腔内の清潔が保たれるよう支援している。歯科衛生士に指導を受け、必要な方にはスポンジブラシやコンクールを用いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンやサインを全職員が把握し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導している。	個々に合わせたトイレ誘導を行うことで、尿意を訴えられるようになったり、退院後、入院前に近い状態に戻ったりする利用者もいる。ポータブルトイレは夜間のみ使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、リハビリ体操や水分補給を促しスムーズな排便に努めているが、もう少し歩行する機会を増やしていきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分を重視しながら、職員と1対1でかわれるゆったりとした楽しい時間になるように配慮している。入浴時間はご本人の希望には添えていないのが現状である。	入浴が好きな利用者に対して頻度を増やすなど、なるべく利用者の希望に沿った支援に努めている。入浴を嫌がる利用者には、お気に入りの職員が対応したり、音楽をかけたりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活リズムを整え午睡の必要な方や、就寝時間の遅い方など個々に応じた対応を行い、眠れない利用者については、ご本人の状態や環境面等を総合的に考えて、調整に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は誤薬のないように、ご本人と一緒に「日付・名前・飲む薬」の確認を徹底して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の楽しみや、得意なことで力を発揮して頂き、その方らしい姿が見られる場面作りを心がけている。工作や料理や生け花、畑仕事など経験や知恵を発揮していただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	嗜好品の買い物に近所のスーパーまで出かけたり、気分転換に園庭に散歩に出たりの支援は行えている。一人ひとりの希望には添えていないが、外出の機会は増えてきている。ご家族も協力的であり外食や気分転換の機会を作っていたりしている。	日常的には、職員と一緒に洗濯物を干したり、園庭の花や野菜の植え替えを見たり、野菜を収穫したり、買い物に出かけたりしている。また、同法人内の他事業所の行事に出かけたり、家族と一緒に昼食に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力のもと、お財布を持っている利用者もあり、希望に応じて買い物に行き支払いをして頂いたり、お金を使うことが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に相談の上、希望時には電話をかけていただいたり、年賀状をだしていただく支援もしている。家族からの手紙を楽しみにしている利用者もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には利用者と一緒に作った季節を感じる壁画を飾ったり、ホールや玄関には園庭の季節の花を生けて楽しんで頂けるように配慮している。トイレやゴミ等の不快な匂いに気を配っている。	利用者が集うホールには、コスモスの折り紙作品やどんぐり・落ち葉のぬり絵作品などが飾られ、季節を感じることが出来る。また、ウッドデッキなど利用者が思い思いに過ごせる場所も確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他ユニットの利用者の所へ行って気分転換を図ったり、テラスで日光浴をしたりと、一人ひとりの落ち着く時間を過ごしていただけるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人の写真や思い出の品を持ち込まれ、安心感のある馴染みの環境となるようにご家族にも協力をお願いしている。	壁にひ孫の写真を飾ったり、好きなぬいぐるみや時計、お気に入りのパジャマやシーツなどを持ち込んでいる。ベッドやポータブルトイレの配置は、利用者の動線や状態に合わせて工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の力で安全に移動ができるようにホールの席の配置を考えたり、居室で安全に過ごすことが出来るように身体状況に合わせてベッドや車イスの配置を考えている。		